修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　白滝末紀
東京都千代田区西神田
2丁目8—7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務でもある。
（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

全修協

地区会議始まる

研修旅行の拡充と修旅委の組織活動へ

（財）全修協の本年度地区会議は東北を皮切りに五地区で開催される。協議は①昭和四十七年度冬季および春季の研修旅行実施について②昭和四十八年度夏季の研修旅行実施について③修学旅行改善運動の推進について④その他。

①については研修旅行多シーズン制への具体化として全国教職員多数の要望によって計画されたもの。②すでに教育界の年中行事として定着した夏季研修旅行を、さらにコースの拡大、内容の強化を図ったもので、それぞれ具体案について討議を行なって決定、ただちに全国的な参加募集を開始することになる。

また、③修学旅行改善運動の推進については、新たに発足した関東、東海、近畿三地区公立中学校修学旅行委員会連絡協議会について説明、同協議会の活動に対して積極的な支援を要望するほか、新幹線の運行地域における修学旅行委員会の育成強化策を打ち出す。

本部から山本理事長のほか関係職員および友好協力団体からも役員が出席する。

地区別の開催日と会場は次の通り。

▽東北地区　十月二十四日（火）午後一時、福島県飯坂温泉一楽荘▽関東地区　十月二十七日（金）午後一時、栃木県奥日光高原ホテル▽北陸・東海地区　十月三十一日（火）午後一時、福井県芦原温泉芦泉荘▽中・四国地区　十一月十六日午後一時、香川県琴平びぜんや旅館▽九州地区　十一月十四日（火）午後一時、大分県別府温泉ホテル白雲山荘。

なお、地区会議に先立って今後の教職員研修旅行企画についての協議会を十月十七日午後一時から東京・文京区の武蔵野旅館で開く。協議事項は①四十七年度研修旅行の総括②四十八年度研修旅行の実施計画③募集活動とPR資料について④研修旅行関連会議についてなどとなっている。

あおぞら号運営協

近畿地区・役員改選も

【大阪】近畿地区あおぞら号運営協議会（乾英三郎会長）では十一月二日午前十時から大阪市天王寺区のグリル近鉄会議室で協議会を開く。会務報告、役員役選のあと、四十九年度の「あおぞら号」乗車植付について打合せを行なう。

要保護対策進める

三地区修旅委連絡協

結成いらい三カ月、今後の活動に大きな期待をかけられている関東、東海、近畿三地区公立中学校修学旅行委員会連絡協議会（久保田八郎会長）では十月二十、二十一の両日、愛知県蒲郡市三谷町に役員のほか顧問の全修高山本理事長も出席して第二回協議会を開く。

協議事項は（一）修学旅行関係予算についての要望。①要保護、準要保護児童生徒に対する修学旅行費の補助②引率教員の旅費、日当、手当の公費支給（二）修学旅行関係輸送力の増強についての要望。（三）修学旅行費の父兄負担の軽減についての要望①鉄道運賃・料金の大幅割引についての要望（とくに新幹線の特急料金全免について。（四）修学旅行時における不慮の災害事故に関する保険制度について、などを討議決定する。

なお、第三回の協議会は申し合わせによって、関東で開催する。

立花欣一氏が関汽の常務に

近畿地区高等学校修学旅行専用船運営協議会の前事務局だった立花欣一氏（関西汽船株式会社取締役）はこのほど常務取締役に就任した。企画ならびに宣伝を担当する。

研旅の担当変わる

近畿日本ツーリスト

近畿日本ツーリスト株式会社の全修協教職員研修旅行の実施担当役員は伊東五郎専務取締役から桑原守也常務取締役に、また、直接担当の営業管理室では福原賢次部長から今林弘部長に変更された。

風紋

高松塚古墳の壁画と中国長沙の馬王堆古墳の人体と千余点にのぼる副葬品は、歴史学者だけの問題でなく、ひろく深く、人々の心をゆり動かしたが、児童生徒たちがどのようなうけとめかたをしているかということが大切な問題である。正しい指導はどうあるべきかということは、いろいろ議論もあろうが、まず教師自らがこの大きな歴史文化の遺産をどう考えたかが問われなければならない▼年代でいうと高松塚がかりに七世紀末とすると今から約一三〇〇年前、一方の馬王堆は前漢時代だから二一〇〇年前、その差八〇〇年は長い年月である。だが、八〇〇年新しいから、史的価値に差があるというものではなく、それぞれ特異なものであり、特にわれわれ日本人には、長沙が出たので明日香が色あせたというものではない▼二つの古墳発掘の様子などテレビ、新聞などで知らされた気持を端的にいうと、高松塚の場合は「生きていた日本の古代に直接ふれる深いよろこび」であり、長沙の場合は「神秘的な中国文明に対する大きなおどろき」であった。しかも両者ともうけた感動の波がいつまでも消えない▼高松塚をめぐって日本、韓国、北朝鮮の代表的学者によって共同の研究討論が行なわれたというが、日本の歴史が東洋諸民族の歴史の中で、さらにユーラシヤの民族文化の潮流から見なければならない、ということは一致したところであり、われわれも全くそう思うところだ▼日本古代国家の形成という「なぞ」の扉をひらく鍵をみつけたという喜びは大きいが、この明日香の古代からの使者はなかなか遠い昔を物語ろうとしはしない。それにしても、壁画を通じてこれを描いた人々の時代と人間像にふれようとする気持は、古いものを新しく蘇らすことになる▼修学旅行で、古い仏像に接する生徒たちに、素朴ながら何かひとつ考える心を持たせたいものだと思う。

関修委の運動と目標（3）

既成概念こえる宿舎

＝びわ湖と鈴鹿を選んでみた＝

高田福松

三、修学旅行の宿泊について

現代は創造性ゆたかに物ごとを考える時代となりつつある。単なる観光業者に引きずられるまま、きまりきった神社、仏閣をたずねて見回わるのでなく、事前に社会（地理と歴史）で教えたのみの過去の文化遺産を、マンネリ化して漫然と足をはこぶだけでは興味もわくまい。

宿屋が面白く、驚げて泊れたというのみでなく、宿泊所も選定も単に大人数を一カ所に収容して、管理しやすいだけで、事たれりではあまりにも策がなさすぎるのではあるまいか。

改善策として、私は次のように実施してみて、夢多い現代人に合った宿泊地をえらんでみた。

それは第一日、八時四十五分東京発、十一時三十六分京都着。駅前発十二時。その後、二条城、金閣寺、清水寺をみて、写真も二か所で記念にとり、近江路に向う。石山寺を見学し、琵琶湖大橋をながめ、五時、びわ湖バレイ（谷の意）着。

カーレータで千百㍍の山に、二十五分で登る。ことびわ湖バレーの地は眺望もよく、晴れたときには琵琶湖の全景が一望の下に見えて浩然の気を養うによい。

ここは三百人が宿泊できる。キャンプ・ファイヤーも可能で、思うぞんぶん、山の気も味わえる。

翌朝、六時に起床。広い平らな場所で体操をして、朝の散歩。汁谷へリフトで数百㍍おりる。汁谷こそは、七百年の昔、日蓮上人が比叡山を出て修業にはげみ十数年日蓮宗を創始したところ。なるほど谷川の水は流れ、ミズバショウは咲きみだれ、全山を覆いつくす。シャクナゲの見事さは、なんともいえぬ気持ちである。

★……★

山の少ない土地に住む生徒には興味深い宿泊地であった。七月ともなれば、日本に二か所しかないといわれる三十㍍㍍の大輪の花を咲かせる南米のベゴニアが温室内に花の女王として咲くという。

そこをあとに、朝食後、整列して記念植樹。何年かのあと記念植樹はどうなっているか、わが生長と比すべきか合か。思い出のベゴニア・ホテルをあとにした。

カーレータも全国にただ一つしかない新工夫の一時間三千人の輪送できる十数億円をかけて、山に渡したエスカレーターのようなもので、生徒たちにも生まれて始めての経験であった。なおびわ湖バレイは主として冬期には大スキー場として関西地方で有名であるという。七月でも暑くなく、暖房を必要とする涼しさであるという。さわやかな宿泊であった。

朝八時半、カーレータのふもとをバスで出発、法隆寺へ向う。法隆寺に到着して直ちに昼食、シカと遊び、大仏その他をみるのは従来と同じ。

そのあと、伊賀上野を通り、芭蕉の故郷、あるいは荒木又右衛門の鍵屋の辻をしのび、鈴鹿サーキットに向う。サーキットといえば現代若者の自動車狂の集まるところと思うが、宿泊施設の完備は他に比を見ないものであった。千名も泊れる施設で、八人ずつ班となれば、一人ずつのベッド使用となる。夜間は警備員がパトロールしてくれ、食堂も完備している。サーキット場とは全く隔絶しておりちょうど後楽園の遊園地のようでもあり、現代的なネオンが夜間照明してくれ、危険のない乗物にはいくらでも自由にのれる。

キャンプ・ファイヤーの設備もあるというが、前日と同じくりかえしでもつまらぬので、自由時間とし、十時ごろ就寝させた。

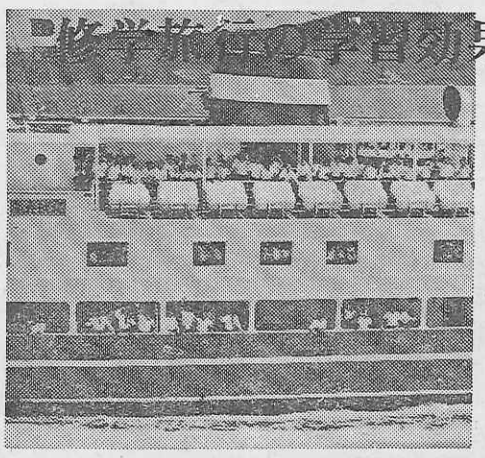
★……★

翌朝は朝食後、テクニカル・ホールに入って、エンジン教室を実施。映画で説明後、二人に一台ずつのエンジンの分解操作を専門家が指導してくれた。学校では数台しかないエンジンの分解組立てを二人に一台の割で手にさわってやることは、三年の教育課程の一部をこなすことでもあるので、有意義なことと思われた。

これは宿泊地を今まで二泊を京都のせまい、また、火災などのことを考えれば、二日とも平屋建てであり、安全このうえなく、管理も楽で、十分な見学ができ、すばらしい研修地であったことはよかった。

さらに考えれば、中学生としては、なかなか困難な班ごとの宿泊も、志賀町（滋賀県）では民宿で三百人以上も泊れる。連絡は全部有線放送である。ちょうど昔の運隊の演習の折のように、一般民家に泊って思い思いに数々の思い出にふけり、また、民情にも触れることができ、意義深い宿泊であった。班ごとの見学は、何としても中学生としては無理で、管理しがたいが、せめて宿泊ぐらいは自由に、一般家庭の監督のもとに、教師の見回わりていどでやれるのも興味あることのひとつではないかとも考えられる。

（つづく）＝関東地区中学校修学旅行委員会運営委員長・埼玉県中学校修学旅行委員長・幸手中学校長）



全船冷暖房完備の修学旅行専用船
わかば丸・ふたば丸
旅客定員805名・1,100トン
●一般客との混乗がありません
●船内での学習や研究ができます
●海・船の社会科研究もできます
楽しい有意義な瀬戸内海の修学旅行を！
関西汽船
●お問合せは…大阪（441）9161
ほか関西汽船各地営業所・各旅行斡旋案内所

充実した修学旅行

ツーリストをお役立てください
ツーリストでは意義ある行事をさらに充実させるために、事前、または事後学習用として“修学旅行映画”シリーズを製作しております。
●修学旅行映画シリーズ
京都の庭園　富士箱根　日光　大和の国なか
大和の塔　火とみどりの国　瀬戸内海
みちのく　大和の道　大和の石　京都の川
（いずれも文部省選定、16ミリカラー、上映時間25～40分です）
電子計算機がおてつだいする　ひまわり窓口　「登録第20号」
近畿日本ツーリスト

人気よぶ

奈良歴史教室

大和の歩み一堂に
事前指導に大きな役割

鉄駅
良近
奈

奈良市・近鉄奈良駅ビルの四、五階にある奈良歴史教室は古都奈良・大和路の昔を語る展示ホールとして好評を博し、連日、修学旅行生や団体客で賑わっている。この奈良歴史教室は近畿日本鉄道が巨額の費用を投じて建設したもので、一私鉄の事業としては世界にもその類をみないものと高く評価されている。多くの写真パネルや実物大の模型、あるいは映像を用いて同地方の歩んできた尊い足跡を平易に解説しており、奈良・大和路に出向くまえの予備知識を授けてくれる。さいきん同館へ、その施設内容の問い合わせが激増しているという。そこで本紙では〝奈良歴史教室〟を紹介することにした。

壁画　万葉の春を香りたかくえがいた上村松篁画伯の心あらたまる力作で、大きな壁面を飾る。

奈良県の歴史　現在の奈良県の地図をベースに、点滅する色ランプを使って飛鳥時代、奈良時代の宮跡、条里寺院などの配置を解説。

大和のあけぼの　奈良県から発見された縄文や弥生時代の遺品を写真で展示している。

古墳コーナー　中国大陸との交通がはげしくなり、文化も急に進んで古墳の築造もさかんになり、土まんじゅうにすぎなかった墓も、豪族があらわれると大きく複雑になってきた。そのうつりかわりや形、出土品などを平易に解説。

飛鳥コーナー　飛鳥は日本のあけぼのから平城遷都まで歴史の舞台の中心地であった。そのため皇居もこの飛鳥の地にあり、進んだ大陸文化を取りいれて、日本文化の向上に努力した時代である。この飛鳥には宮跡や寺跡、古墳、御陵のほか理解できないかずかずの石造物がたくさん残っている。これで遺品や遺跡の分布を地形模型や写真パネルでくわしく解説している。

大和の古建築　飛鳥時代から室町時代にわたる各時代の代表的な建物を写真パネルで紹介し、その見どころを説明している。

万葉歌碑　飛鳥は万葉集にたくさん歌われている。飛鳥寺、甘橿丘、石舞台にある三点を美しい拓本にしてある。

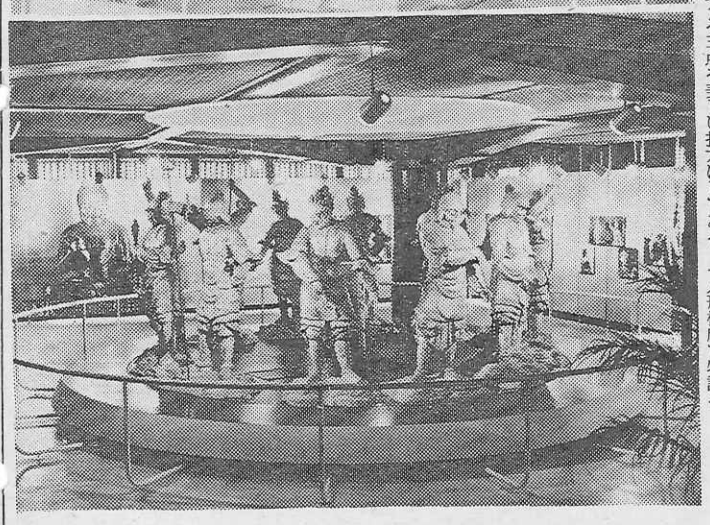
高取山の猿石　南北朝時代、越智氏が高取城を築城する際、石積にするため飛鳥から運んだものの一つであろう。付近に残る猿石を実物大に模造したもの。

古瓦　飛鳥地方のところどころで古い瓦がたくさん発見されている。その実物を展示

茶臼山の古墳　桜井市にある前方後円墳。航空写真の大パネルでその形をくっきりと表現している。また、石室を発掘時のままに三分の一大に復元し、内部にライトを入れて構造を解説。玉杖や玉葉、まが玉などの副葬品（模造）も陳列してある。

石舞台の古墳　豪族蘇我馬子の墓とされている。伝えられているが、封土を失なって石室だけが露出したもの。多くの人々が長い年月をかけて完成したものであろう。その工法を図示してある。

大化改新物語　大化改新のいきさつから壬申の乱、中国大陸にならって造営された藤原宮の模様などを美しい人形構成で物語る。



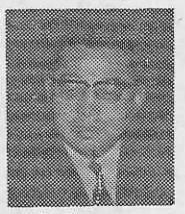
【写真】㊤薬師寺西塔の模型。㊦新薬師寺の十二神将。（奈良歴史教室で）

類をみない施設

樋口清之

近鉄奈良駅の歴史教室ほど全国に誇り得るユニークな歴史の視覚による解説機関の存在を私は知らない。欧州をまわっても、これに匹敵するものを見なかった。北欧の博物館は、野外での学習活動の施設として有名なものが多いがこれとは質がちがっている。もしこんな施設が全国、とくに文化財を多く持つ地域に多く出来ると、日本の教育水準も変ってくるだろう、と思えるほど、組織的で計画的、しかも興味で引きつける主体性を持っている。

壁面の有効な利用や、十二神将の回転盤上での転回など博物館学的に見ても抜群だ。大和の歴史をこれから見て理解しようとする者には、大人でも生徒でも、ぜひ先ずここでその観方を学んでから現地に行くべきだと思う。しかもそれが県当局の造ったものでなく、こんな純教育的なものを、一私鉄が造ったところに文化財の中を走る近鉄の体質の一部が知られて敬服する。



（国学院大学教授・文学博士）

天平時代の奈良　七重塔がそびえる東大寺、整然となら ぶ興福寺の伽藍御蓋山のふもとにしずまる春日大社。奈良がいちばん栄えたころの五分の一の模型である。

塔のおいたち　法隆寺五重塔、薬師寺三重塔、談山神社十三重塔など写真で塔のうつり変わりを解説。いろいろな塔の比較できるのが魅力である。

薬師寺の西塔　〝凍れる音楽〟とたえられる薬師寺東塔。礎石だけを残す西塔も、もとは同じ姿でそびえていた。十分の一に復元した西塔の模型は、薬師寺でも見学できないちがう。多くの写真パネルで比較できる。

薬師寺の仏石足と歌碑　仏石足を実物大に模造し、仏石石歌碑を拓本にして展示。

仏像のいろいろ　仏像にもいろいろの種類がある。薬師、阿弥陀、釈迦などの如来。弥ろく、観音、月光などの菩薩。不動、大威徳などの明王。大黒、梵、多門、吉祥、伎芸などの天と、それぞれ形も役も内部の木組みを細かく再現している。

歴史教室案内

入館料　おとな百円、こども五十円。二十五名以上の団体おとな五十円、こども三十円。

開館時間　平日＝午前十時から午後六時まで。（入館は午後五時三十分まで）日曜・祝日＝午前十時三十分から午後六時三十分まで。（入館は午後六時まで）

休館日　月曜日と年末年始。（月曜日が祝日のときは火曜日が休み）

スライドを貸出し

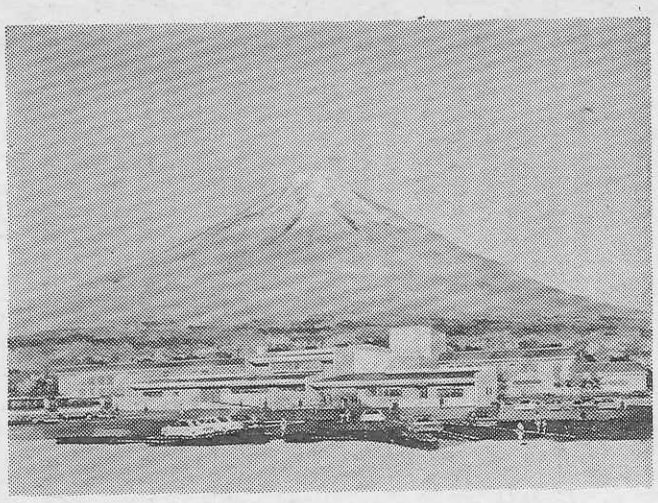
申込みは全修協へ

奈良歴史教室では同館の解説スライド三十八枚組みを完成、全修協に寄贈した。修学旅行の事前指導に好適であるから、貸出しを希望する学校は全修協本部へ申し込まれたい。

富士緑の休暇村
樹海のなかに誕生

富士山麓の河口湖周辺は、関西や東海からくる修学旅行生の宿泊地として利用されているが、群小旅館の密集する湖畔の旅館は分宿などのため修学旅行用として不便だった。こんど河口湖から近い鳴沢村の広大な地に〝富士緑の休暇村〟が誕生した。宿舎とセミナー・ハウス、各種のスポーツ施設を備えたこの〝緑の休暇村〟は修学旅行用宿舎のほか林間学校、移動教室として野外の教育活動のため大いに利用されることになろう。

河口湖から西湖方面への富士山麓地帯に多くの観光施設をつくっている富士観光開発株式会社（志村寛社長）は、南都留郡鳴沢村の樹海をきりひらいてここに青少年向きの健全な緑のセンターを建設、十月十五日から開場した。



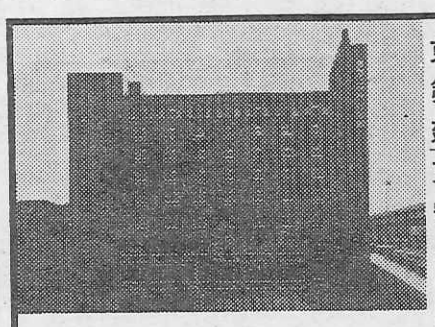
背後に富士山、周囲は青木が原の樹海という絶好の敷地十六万五千平方㍍に宿泊棟本館鉄筋二階建て二十四室（三百五十名収容）学習棟（セミナー・ハウス）七室、五百名席の大食堂のほか、スポーツ施設としてはテニスコート十面、サッカー場二面（夜間照明つき）陸上競技用トラック、バスケット・コート、バレー・コート、各一面、キャンプ・ファイヤー場、緑の広場、展内体育館や二階には百名可能の大浴場がある。

そのほか、いま鉄筋三階建ての新館（四十八室）を建設中で、来年四月には完成する。宿泊料は小中学生団体が一泊千二百円で奉仕するという。

付近には西湖、東海道自然歩道や富士五湖が一望できる紅葉台、氷穴、風穴などがあり、富士山麓特有の自然科学学習地として利用価値が高い。

同社は富士スバル・ランド、富士スバル・ロッジ、河口湖ロッジ、河口湖遊園、本栖湖山荘、ゴルフ場の経営や別荘地の分譲も行なっている。

同社旅客課長　富士山を持つ斎藤総氏の話　雄大な景観をそこなわぬよう建物はいたずらに高層にせず、静かな自然のなかにたたずむよう計画してある。周囲は理科の学習に適しており、また、すんだ空気のなかでスポーツを楽しんでもらいたい。東京への足場として富士を眺める思い出の宿になることと思う。



東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。

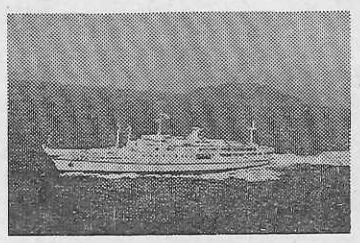
東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL (03)585－1046(代表)

東京 コマ旅行会館

若い心を大きく広げる

豪華観光船 ふじ・にほん丸（旅客定員 1,800名 3,000トン）



見ているだけで、心が大きく広がる海――
修学旅行は海になさいませんか。
日本最大の豪華客船　ふじ・にほん丸が、
生涯忘れえぬ修学旅行へご案内いたします。
純白の船体に若い心をのせて……。
●科学技術の粋をあつめた最新鋭船。
●一流ホテルのような豪華な設備、完全エアコン。
●皆さまのスケジュールにあわせて就航。
●学習講議用TVシステムも完備。
●一般乗客との混乗はありません。

●お問い合わせは●
Ⓐ 大島運輸株式会社 東京支店　東京都中央区日本橋通1の6 浅野ビル ☎(03)273－8911